起業への情熱 応援したい

総評

◇審査委員長◇
大阪府立産業技術総合研究所所長
南　努

評価の難しさを実感

学生の提案による「ベンチャービジネスグランプリ」の審査に初めて携わった。いずれの提案も着想が非常に多岐にわたっており、二次審査のプレゼンには興味津々で臨んだ。そせぞれの着想をどのようにベンチャー化しようとしているのか、確認したいと思ったからだ。

ビジネス部門では、最優秀賞に選ばれた「ホームレスを生み出さない日本への変革のためのHUBchari事業」をはじめ、優秀賞の「地域貢献を目指す国際ゲストハウスマネジメント構想」や、特別賞の「耕作放棄地を活用したエゴマの里プロジェクト」など、受賞対象者の多くがすでに起業していたり起業に向けた整備が進んだ内容であったこと が特徴的。また大震災の直接的影響ではないかも知れないが、ボランティア関連の提案が多かった印象もある。

一方、テクノロジー部門は分野の性格から現時点でのベンチャー化は少なくアイデア段階のものが大半を占めた。

最優秀賞に選ばれた「GaN単結晶作製技術『OVPE法』の実用化」のように大学院での研究成果をほぼそのまま提案していると感じたものもあった。大学院での第一線研究であり内容の深さは圧倒的に優位と言える。

ただ審査会は「研究発表の場」ではなく「ベンチャーグランプリ」を評価する場。ベンチャー化への距離を感じるとともに、専門家がいない状況での評価は審査委員長として極めて難しい判断を迫られた。自身、大いに悩んだことを今後のために記しておきたい。さらに、テクノロジー部門ではモノづくり経験のない学生の提案が主で、前記のような研究に裏打ちされたものでない場合はニッチ的内容に成らざるを得ない。提案、評価ともに難しさを実感した。

今回は280件、35校からの応募があったとのこと。今後も参集拡大により同賞がますます発展し、多くのベンチャー企業が創出されることを期待する。大企業といえどもその多くはベンチャー的な小企業からスタートしているのだから。

審査を終えて

第13回CVG大阪 委員各氏からメッセージ

テクノロジー部門

事業面に配慮を

創晶
代表取締役社長
安達 宏昭

テクノロジー部門での評価は技術の秀逸さ、独創性、新規性を重視するもの、「キャンパスベンチャーグランプリ」はビジネスプランコンテストであるため、ビジネス提案が不可欠である。

プレゼンターの技術説明には情熱を感じるが、事業プランがおろそかになっている提案が多い。学会発表ではないことを認識し事業化の可能性や発展性をしっかりと示してほしい。

最先端技術であるからこそ、世の中に普及させ役立つようにするにはどうすればよいのか、真剣に考えることが大切である。

学生にとって、ビジネスは縁遠い存在かもしれないが、社会貢献という観点からイメージを膨らますことで、将来性が見えてくると思う。これこそが、起業への第一歩であり、研究開発や商品化への推進力になる。

清々しい気分に

高知工科大学大学院
客員教授
前川 洋一郎

世間では就職氷河期といわれ、大学のキャンパスは理事長も教職員も一緒になって就職活動一色だ。大学人として落ち着かない今日このごろではあるが、「キャンパスベンチャーグランプリ」の審査会で学生のプレゼンテーションを聞くと、何だかワクワクし清々しい気持ちになってくる。

今回、審査の対象となった各テーマにおいても「このような道もあったのだ、こんな未来に向けた夢を語る学生がいるのだ」と感心させられる内容が数多くあった。

企業に勤めるだけが人生ではないと思う。人生には〝まさか〟という坂がある。ベンチャーという〝真坂〟の上の雲を目指す若い学生男女たちに、心より敬意と嫉妬を覚える次第だ。

独自技術に重き

メガチップス
取締役執行役員
第1LSI事業部長
古都 哲生

今年はビジネスに重きを置いたテーマが多く、特にテクノロジー部門のノミネートで難航した。新ビジネス創出にも既存の技術を多く組み合わせた案件が見られるなど技術系ビジネス発想の難しさを再確認した。

審査ではオリジナル技術をベースにしたテーマを優先した。競争力を備えたテーマには独自発想から技術の考察や顧客情報の収集、他社に負けない最終要求案件の明確化と実現方法の具体化などが必要になる。

ここ数年、エレクトロニクスや情報系で独自技術によるビジネス案件が減少している気がする。来年は素材や製造、化学系のテクノロジーテーマに挑戦した応募を期待したい。

また、組み合わせや改善だけでなく、ゼロから限定でなく世界に飛び出すプランの拡大などを期待したい。

高レベルで拮抗

NPO法人IT百選
アドバイザー・クラブ
アドバイザー
所 喜代春

今年度は暗いニュースが多く、相変わらず経済の先行きも不透明感が強い。

こうした中、若い発表者たちの積極的なエネルギーを体感し、審査日最終の疲労感も心地よいものとなった。

内容的には社会性の高いものが多く、レベルもかなり高いところで拮抗し例年になく審査が難航した。

各々のプレゼンテーションは全体に良くまとまっているが、相手の質問を正確に理解し的確に回答できる人はまだ少ない。提案しているテーマについて、事前の環境調査や批判的な人とのディスカッションが不足している点は例年と変わらない。

最優秀の2プランは対照的な内容であるが、ともにテーマに必死で取り組んでいる姿が目に浮かぶようで、学生らしくすばらしかった。

ビジネス部門

プレゼン力向上

サントリー文化財団
上席研究フェロー
佐藤 友美子

数年ぶりに参加した審査会で感じたことは学生のプレゼン技術の向上。結果、優劣を決するのは問題意識の確かさと、思い入れの深さということになる。特に担当させていただいたビジネス部門ではその傾向が強い。

今回の賞に輝いた「ホームレスを生み出さない日本への変革のためのHUBchari事業」や「地域貢献を目指す国際ゲストハウスマネジメント構想」も時宜を得た良い提案だ。

斬新な提案多い

ニュービジネス
起業研究所
代表取締役
佐藤 宏

「キャンパスベンチャー大阪」は今年で13回目を迎えた。応募は280件で、参加は過去最多の35校に拡大。近畿全域の大学や高専の学生に輪を広げ、少子高齢化や過疎地域の活性化、ボランティアなど、今日的問題をテーマに若者らしい斬新な提案が数多く展開された。応募者のプレゼンテーション技術の向上も顕著だ。今年度のビジネス部門最優秀賞に輝いた「ホームレスを生み出さない日本への変革のためのHUBchari事業」は、ホームレスの社会復帰という難しい問題に対し〝chari〟を媒介に上手く解決し、NPOを設立するなど社会的に極めて意義のある事業と言える。「地域貢献を目指す国際ゲストハウスマネジメント構想」も時宜を得た良い提案だ。

ゲストハウスマネジメント構想」は、個人的な興味関心やビジネス性だけでなく社会に役立つことを目的としている。企画は具現化段階にあり大きな可能性が感じられた。また、立命館大学の松原さんらの自費出版コミックに関するプランは、自分たちの趣味に拘りぬいた企画で熱いものを感じた。13回目を迎えた「CVG大阪」、若者に希望を感じた審査会であった。

危機意識伝わる

大阪経営イノベーションオフィス
代表
清水 利男

私が担当したビジネス部門の審査で感じたことは、プラン内容に高齢者や離婚、ホームレス、農業、就職難、待機児童など今の日本が抱える問題解決へのメッセージが数多く織り込まれていたこと。学生が危機感を抱いている実態をひしひしと感じた。とりわけ最終審査に残ったプランはレベルが高く起業化有望なものもあり今後が楽しみ。

キャンパスベンチャーに応募し起業された方々でOB会が発足している。今後、OBが起業を目指す学生の相談に乗る体制作りをお願いしたい。案だけで埋もれてしまうテーマも多数ある中、起業は有望な人生の歩み方かもしれない。起業経験を持つ先輩を中心に、支援する仕組みが広がることを願っている。

目標設定雑ぱく

上野流通戦略研究所
代表取締役
上野 祐子

今年も学生の興味深いビジネスプランに出会った。

テクノロジー部門では案件数の減少や内容の小粒化傾向が残念だが、顧客創造を可能にするビジネスプランもあり、興味深かった。

全体を通し感じたことはターゲットの設定や市場ニーズ・状況の動向把握、競合のベンチマークなどが雑ぱくであり、プラン自体の実現性へ根拠が不明確な点。

ビジネス部門では核である仕組みと目標・コンテンツがうまく書ききれていないものが多い印象を受けた。

その中でも、立命館大学の松原さんらの自費出版コミックに関するプランは、面白く興味深いビジネスに成長する予感を持った。現実的な企画であり、今後他分野でも活用できるビジネスモデルとして注目したい。今後は市場設定において国内の提案が多かったが、いずれも学会の発表要旨に将来ビジョンを追加した程度のものが多く見られた。事業化にいたる投資規模やコスト計画、類似商品との競争戦略などが語られておらず残念であった。ビジネスプランで最も重要ともいえる部分が欠落していたと感じる。

ビジネス部門では、福祉や地域支援などの社会貢献を実体験した発表テーマが多く見受けられた。現在の社会の課題に少しでも役立ちたいという思いが伝わってくる内容であった。

今回は、両部門を通じて重点的に取り組んできたテーマが多い。事業化に移すなり、これをヒントに起業するなど、将来、社会に強いインパクトを与える提案が大変多かった。

評価力問われる

日本経営研究センター
代表取締役
服部 吉伸

今年もレベルの高いビジネスプランが多数プレゼンされた。私には『MBAのビジネスプラン』（文理閣）という著書があり、経営戦略、商品開発、事業開発のプロとして手抜きの審査はできないと考えている。私は審査に当たり、新規性・独創性、収益性、成長性、競争優位性、市場性、リスクマネジメントといった六つの視点から学生のビジネスプランを評価している。

審査されているのはビジネスプランを提案している学生だけではなく、審査員もその評価能力を問われているのである。

今年は以上の6項目に加え、「実際にやっているか否か」という項目をプラスしてビジネスプランの評価を行った。いつも身の引き締まる思いであるが、今年もそうであった。

事業化を念頭に

ビジネス
インテグレート
代表取締役
萩平 勲

テクノロジー部門では、技術的に優れた内容の提案が多かったが、いずれも学会の発表要旨に将来ビジョンを追加した程度のものが多く見られた。事業化にいたる投資規模やコスト計画、類似商品との競争戦略などが語られておらず残念であった。ビジネスプランで最も重要ともいえる部分が欠落していたと感じる。

ビジネス部門では、福祉や地域支援などの社会貢献を実体験した発表テーマが多く見受けられた。現在の社会の課題に少しでも役立ちたいという思いが伝わってくる内容であった。

今回は、両部門を通じて重点的に取り組んできたテーマが多い。事業化に移すなり、これをヒントに起業するなど、将来、社会に強いインパクトを与える提案が大変多かった。

美しさは「訴求力」につながる
高精細印刷FMスクリーン
URL:http://www.fukuda-p.co.jp
福田印刷工業株式会社
神戸 〒658-0026 神戸市東灘区魚崎西町4丁目6番3号 TEL(078)811-3131 FAX(078)851-8443
東京 〒104-0045 東京都中央区築地2丁目2番6号 TEL(03)3543-7371 FAX(03)3541-7396
IS 541991/ISO 27001:2005　GREEN PRINTING JFPI F-B10041 本社・本社工場　FSC www.fsc.org FSC® C011373 責任ある森林管理のマーク

水から生まれ
水へと還る
液化水素
H_2
それは
CO_2を出さない
エネルギー
低炭素社会を支える、イワタニの液化水素。

子どもたちに水素の可能性と正しい知識を伝えるため
全国各地で「水素サイエンス教室」を実施しています。
ガス&エネルギーで未来を拓く
Iwatani
岩谷産業株式会社
大阪本社 〒541-0053 大阪市中央区本町3-6-4
東京本社 〒105-8458 東京都港区西新橋3-21-8
http://www.iwatani.co.jp

この銀行では
お金がとれません。
ATTENZIONE!
DENARO
NON DISPONIBILE
Protetto da sistema
antirapina temporizzato
ed allarmato
GLORY RZ100
Il personale non
puo modificare
in alcun mode
la configurazione
in essere
del sistema

イタリアのある銀行では、こんなメッセージと共に、グローリーの紙幣入出金機「RZ-100」を設置したことをお客様に知らせるポスターを張り出しています。評価されたのは、現金管理の安全性を高める入出金機能と、金庫のような頑丈なボディー。窓口の人には心強い存在、良からぬことを考えている人には手ごわい存在。グローリーの「とらせない技術」が、世界の銀行窓口の安心で快適な環境づくりに貢献しています。
GLORY
We Secure the Future
思いをかなえる 技術で見つめる 確かな未来
◎グローリーの「紙幣入出金機 RZ-100」は、ECB Article6（欧州中央銀行が制定した厳しい紙幣正損選別基準）をクリアしています。
グローリー株式会社　本社 〒670-8567 兵庫県姫路市下手野 1-3-1 TEL (079) 297-3131 (代表)
東京本部 〒101-8977 東京都千代田区外神田 4-14-1（秋葉原UDX） TEL (03) 5207-3100 (代表)
www.glory.co.jp